

平成27年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成28年 月 日

研究・研修課題名	第106回マンモグラフィ認定更新試験 受験
研究・研修組織名（所属）	
研究・研修責任者名（所属）	小玉 紗弥香(放射線部)
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

① 目 的

乳がんは日本女性の悪性腫瘍罹患率第1位であるが、早期発見・早期治療により予後のよい疾患である。

しかし、初期段階では症状がなく罹患者が自覚した際には進行している場合が多く、40代以上では罹患率が上昇する。その為、乳がんを初期段階で見つけるため一定年齢以上の女性は定期的な検診が重要となる。

現在日本の乳がん検診はマンモグラフィを用いている。自施設でも昨年度より乳がん検診をスタートさせ、検診をより有用なものとするためより良いマンモグラフィの撮影が必要となり、撮影技術の向上はもちろんのこと装置や画質の管理も重要となる。

そこでマンモグラフィの技術、知識向上・維持のため NPO 法人日本乳がん検診精度管理中央機構がおこなっているマンモグラフィ認定技師試験を受験し資格更新を目的とする。

② 方 法

NPO 法人日本乳がん検診精度管理中央機構主催が主催する第106回マンモグラフィ更新技術講習会を受講し、マンモグラフィ認定技師を更新する。

日時：平成27年6月27日

場所：京都府京都市 三笑堂 3階会議室

③ 成 果

認定更新の期限は5年であるため、講義の内容はここ近年の検診事情やマンモグラフィの品質管理等の変更された部分を学んだ。

欧米の乳がん事情は検診率が高く死亡率が低い、日本は検診率が低く死亡率が高いというのがこれまでのデータだった。しかし、一昨年日本では検診率が上昇し、死亡率が減少したというデータが提示された。これは、乳がん検診が広く認知された結果だということだった。今後も上昇傾向を維持していけるようにマンモグラフィを撮影する技師の質が重要であることを再度認識した。

また、従来のマンモグラフィはフィルムで読影するスタイルが主流だったが、近年では CR

や FPD などのデジタル技術の向上により読影をモニターで行うようになってきた。

それに伴い、品質管理も様変わりした。従来のフィルム撮影で得られる画像は撮影時の条件によって画質が決定されていたが、デジタル画像は、各種パラメータ、表示画像系など、いくつもの条件によって画質が決定される。その使い方や各種パラメータ、画像表示系によって、思いがけない画質になる可能性があるため品質管理をきちんとおこなう重要性を学んだ。

その後、今回の目的となる筆記と読影の試験を行い、試験終了後に受験者の撮影したマンモグラフィを参照しながら各施設の臨床画像評価をおこなった。

各施設より持ち寄られた写真を見ることで、自分の撮影に足りないところ、他施設が行っていることなど普段得られない情報を得ることができた。

試験を終え、認定を A 認定のまま更新することが出来た。マンモグラフィ検診認定技師としての自覚を持ち、品質管理を定期的におこないながら、技術・知識ともによりいっそう向上し、後輩育成に努め、より良いマンモグラフィを提供することで地域社会の乳がん死亡者数の低下のため寄与できるように努力していきたい。

* N P O 法人日本乳がん検診精度管理中央機構

検診マンモグラフィ撮影技術認定評価票 受領済 【2016年】